

(添付ファイル 第8号様式)

令和元年度三重県公共事業再評価箇所一覧表(県事業)

(単位:百万円)

事業名	番号	箇所名	市町名	再評価の理由	全体事業概要と目的	事業進捗状況			事業を巡る社会経済情勢等の動向	費用対便益分析結果・コスト削減の可能性・代替案の検討等	今後の事業の見通し	
						採択年 目標年	総事業費	進捗率				事業進捗内容
							工事費	進捗率				
							用地費	進捗率				
道路事業	5	主要地方道四日市鈴鹿環状線(采女)	四日市市		【全体事業概要】 延長 L=900m 道路改良工 L=760.5m 設計速度 V=40km/h 道路幅員W=7.75m(11.25m) 【主要構造物】 橋梁 N=1橋(139.5m) 【事業目的】 ・渋滞の緩和 ・利便性の向上	H21	2,300	50.0%	【実施済事業内容】 工事用道路工 L=760m 【残事業内容】 延長 L=900m 橋梁 N=1橋	関連事業である一般国道477号は、4車線化に向けて整備を進めています。	【費用対分析効果】 B/C=5.9 【コスト削減】 当初盛土材として、購入土を使用する計画でしたが、本工事で発生した残土を流用することで、工事費として約一億円のコスト削減を図っています。 【代替案】 当初の計画では、現道拡幅案も候補の一つとして挙げられていましたが、現道部分には民家が多く立地しています。補償費の高騰や、用地買収の難航による工期延長が想定されることから、バイパス案が最適と考えます。用地買収は完了していることから、代替案はありません。	令和6年度の供用予定です。
						R6	670	100.0%				

注:再評価理由

- 事業採択後5年間を経過した時点で未着工の事業
- 事業採択後一定期間を経過した時点で継続中の事業
- 再評価実施後一定期間が経過している事業
- 社会経済情勢の急激な変化等により再評価を実施する必要が生じた事業

(添付ファイル 第8号様式)

令和元年度三重県公共事業再評価箇所一覧表(県事業)

(単位:百万円)

事業名	番号	箇所名	市町名	再評価の理由	全体事業概要と目的	事業進捗状況			事業を巡る社会経済情勢等の動向	費用対便益分析結果・コスト縮減の可能性・代替案の検討等	今後の事業の見通し	
						採択年 S 目標年	総事業費	進捗率				事業進捗内容
							工事費	進捗率				
河川事業	11	二級河川三滝川 広域河川改修事業	四日市市		<p>【全体事業概要】 全体事業費16,040百万円 計画延長 (三滝川) L=9,700m (海蔵川) L=4,200m (三滝新川) L=500m</p> <p>・築堤 L= 16,736m ・掘削 V=829,733m³ ・護岸 L= 17,566m ・樋門・樋管 3基 ・橋梁 8橋 ・堰 6基 ・用地補償 1式</p> <p>【事業目的】 三滝川・海蔵川沿川の浸水被害防止を目的とした築堤工、掘削、護岸工等の施工による河川改修をおこない、流下能力を確保し治水安全度の向上を図ります。</p>	H18	16,040	42%	<p>【実施事業内容】 ・築堤 L=1,041m ・掘削 V=45,960m³ ・護岸 L=2,178m ・橋梁 2橋 ・用地補償 1式</p> <p>【以降事業内容】 ・築堤 15,695m ・掘削 783,773m³ ・護岸 14,368m ・樋門・樋管 3基 ・橋梁 6橋 ・堰 6基 ・用地補償費 1式</p>	<p>(周辺環境の変化) ・中・下流部は、近鉄四日市駅を中心に市街地が形成されており、流域内の土地利用の高度化が見込まれ、引き続き人口集積が予想されます。四日市市の総人口は減少しているものの事業区間流域の人口は増加傾向にあり、河川改修事業の必要性が向上しています。</p> <p>・流域内は、緊急輸送道路をはじめ重要な道路網が集中する地域であり、依然として治水事業の必要性は高い状況です。</p>	<p>B/C = 87.3 資産データ等を最新のデータに更新した結果、想定氾濫区域内の総資産額が増加したこと及び評価メッシュを細分化したことにより浸水深が増加したことによる総便益が増加したことから、前回評価時よりB/Cが増加した。</p> <p>河床掘削等による発生土を近隣の他事業に流用する等してコスト縮減を図ります。更に、護岸材料、工法を選定する際は、新技術等の情報収集を行いコスト縮減に努めます。</p> <p>流域の大部分が平地であり、ダムを設置する適地がないこと、流域内の開発が進んでいる中で、遊水地の整備のために、新たに広大な用地を取得することや、補償することは困難であることから、現在進行中の河道改修による計画が妥当と考えられています。</p>	<p>治水安全度の向上のため、継続して事業の推進を図ります。</p> <p>令和17年度の完成を目標として、引き続き整備を進めます。</p>
						~	14,123	46%				
						R17	1,917	14%				

注:再評価理由

- 事業採択後5年間を経過した時点で未着工の事業
- 事業採択後一定期間を経過した時点で継続中の事業
- 再評価実施後一定期間が経過している事業
- 社会経済情勢の急激な変化等により再評価を実施する必要が生じた事業

令和元年度三重県公共事業事後評価箇所一覧表(県事業)

(単位:百万円)

事業名	番号	箇所名	市町名	全体事業概要と目的	採択年度	完了年度		事業の効果	事業の環境面への配慮及び事業による環境の変化	事業を巡る社会経済情勢等の変化	県民の意見	今後の課題	
						総事業費	総事業費						
						前回 ⁴	前回 ⁴						
道路事業	503	主要地方道 神戸長沢線	鈴鹿市	【全体事業概要】 延長 L = 1,100m 幅員 W = 13.0(25.0)m 【事業目的】 神戸長沢線の渋滞を緩和し、鈴鹿市街地から東名阪自動車道鈴鹿ICへのアクセス性の向上を図る。また、整備により地域経済や産業の発展、緊急輸送機能の向上が期待される。	H15			費用便益費 ・B/C = 1.7(前回2.5) その他の効果 ・神戸長沢線は第1次緊急輸送路に指定されています。4車線化されたことで緊急輸送機能が向上し、市街地との防災ネットワークの強化が図られました。	交通渋滞の緩和等により、周辺路線のCO2(二酸化炭素)排出量が削減整備なし: 1,253,173.2t-CO2/年 整備あり: 1,252,504.0t-CO2/年 (668.6t-CO2/年の削減)	鈴鹿市は平成27年に航空宇宙関連産業の一大集積地の形成を図り航空機の研究開発や製造に関する事業の展開を図る「アジアNo.1航空宇宙産業クラスター形成特区」に指定されるとともに、平成31年3月に新名神高速道路新四日市JCT～亀山西JCTが開通し当該地域の広域ネットワークが強化され地域の主要産業である製造業の発展が期待されています。当該地域は県内有数の観光地で当該地域の観光施設の入込客数は増加しており、高速道路とのアクセス向上による観光産業の発展が期待されています。主要地方道神戸長沢線は東名阪自動車道や新名神高速道路へのアクセス道路として地域の経済や産業の発展に寄与するとともに、緊急輸送路の機能強化による防災機能の向上が期待されています。	鈴鹿市は平成27年に航空宇宙関連産業の一大集積地の形成を図り航空機の研究開発や製造に関する事業の展開を図る「アジアNo.1航空宇宙産業クラスター形成特区」に指定されるとともに、平成31年3月に新名神高速道路新四日市JCT～亀山西JCTが開通し当該地域の広域ネットワークが強化され地域の主要産業である製造業の発展が期待されています。当該地域は県内有数の観光地で当該地域の観光施設の入込客数は増加しており、高速道路とのアクセス向上による観光産業の発展が期待されています。主要地方道神戸長沢線は東名阪自動車道や新名神高速道路へのアクセス道路として地域の経済や産業の発展に寄与するとともに、緊急輸送路の機能強化による防災機能の向上が期待されています。	主要地方道神戸長沢線付近の鈴鹿市の地域住民へアンケートを配布すると共に、道路利用者に対してWEBアンケートを実施しました。住民アンケートは2,695通を配布し、866通のご回答を頂きました。WEBアンケートにおいては、615名の方からご回答を得られました。主要地方道神戸長沢線の整備については、地域住民の76%、道路利用者(三重県在住)の66%が満足と回答しています。 また、交通安全・産業経済の発展・緊急輸送等の視点から、関係機関へヒアリングを実施したところ、 ・災害拠点となっているため市街地との連絡ルートが複数形成されたことは体制上安心感がある ・歩道が設置されたことで歩行者に対する安心感が増した。 ・4車線化されたことで鈴鹿ICまでの所要時間の判断が容易になった。 ・製造品を運搬する車両の回転効率が向上した。などの声を頂いています。	引き続き 期工区の整備進捗を図り、伊船町東交差点以北の渋滞緩和に努めます。 ・信号交差点の配置や法令違反の抑制については、所轄警察署との協議も踏まえ対応を検討します。
						H26	2,335						

(第9号様式)

令和元年度三重県公共事業事後評価箇所一覧表(県事業)

(単位:百万円)

事業名	番号	箇所名	市町名	全体事業概要と目的	採択年度	完了年度総事業費		事業の効果	事業の環境面への配慮 及び事業による環境の変化	事業を巡る社会経済情勢等の変化	県民の意見	今後の課題
						前回 ⁴	前回 ⁴					
						最終	最終					
河川事業 (総合流域防災事業)	504	二級河川 松山路川	志摩市	[全体事業概要] 計画延長 L=990m 築堤工 L=1,450m 掘削工 V=18,500m ³ 護岸工 L=1,450m 橋梁工 4橋 用地買収 1式	H29	1,500		環境面への配慮 親水性を考慮した階段護岸を採用し、水辺までのアクセスが可能となるようにしています。 又、平均満潮位より下は、生物に配慮し魚巢ブロックを使用しています。 事業による環境の変化 河川事業が完了した直後は、一時的に植生が喪失し、自然環境が低下しましたが、現在では、事業着手前と同様に植生が回復したことで、自然環境に馴染んでいるとともに、魚巢ブロックの周辺で魚類の生息を確認しています。	人口等の推移 浜島町及び松山路地区の人口推移については、どちらも減少傾向にあります。世帯数は、共にほぼ横ばいとなっています。 < 浜島町 > 人口 平成7年: 6,509人 平成12年: 6,102人 平成17年: 5,406人 平成24年: 5,053人 平成31年: 4,236人 世帯 平成7年: 2,065世帯 平成12年: 2,003世帯 平成17年: 1,941世帯 平成24年: 2,038世帯 平成31年: 1,991世帯 < 松山路地区 > 人口 平成7年: 229人 平成12年: 219人 平成17年: 191人 平成24年: 177人 平成31年: 150人 世帯 平成7年: 62世帯 平成12年: 65世帯 平成17年: 61世帯 平成24年: 69世帯 平成31年: 67世帯	アンケートの目的 アンケートは、河川改修を実施したことによる安心感などを調査し、事業効果の確認や事業に関する課題を把握し、今後の同種事業に反映することを目的に実施しました。 調査数: 80名 有効回答数: 49名 回収率: 61% アンケート結果の分析 ・河川改修前は、79%の方が、松山路川の氾濫の危険を感じていましたが、その内63%の方が、「昔は感じたが今は感じない」と回答していることから、河川改修による住民の安心感が向上していることが伺えます。 ・工事に関する満足度は、75%の方は、「満足」「どちらかといえば満足」と感じ、その理由としては、大雨時の浸水がなくなったことへの意見が多く、一方、25%の方は、「不満」「どちらかといえば不満」と感じ、その理由として、事業完了後の土砂の堆積や草木の繁茂など、維持管理に対する意見が多かったことが挙げられます。	継続的な維持管理の実施 河道内に繁茂する草木は、多様な河川環境や豊かな景観を創出します。河川巡視を継続して実施し、治水機能を損わない範囲で、河川環境や景観に配慮した維持管理に努めていく必要があります。 ハード対策とソフト対策の両立 近年、全国各地で水害が頻発、激甚化しており、被害の最小化に向けハード対策とソフト対策の両立が求められています。ソフト対策は、自治体と連携しながら、防災教育や避難訓練などにより、地域住民の防災意識の向上を図っていく必要があります。 地域住民への十分な事業説明 工事期間中は、住民の不満もなく、工事完成後も氾濫に対する住民の不安感が軽減されました。このことから、他の事業を進めていく際には、工事説明会や工事見学会などにより地域住民への事業説明を十分に実施していく必要があります。	
				[事業目的] 松山路川沿川の浸水被害防止を目的に、河川の拡幅と嵩上げ等の改修により流下能力を確保し、治水安全度の向上を図ります。								H6